

# 新工場移転や経営革新計画で 大幅な利益増を実現

## 課題

### 世界屈指の織メッシュ技術を 開発するも不良率低減が課題に

有限会社森本金網製作所は、日本有数の繊維産地である石川県中能登地区で、細幅織物技術を活かして金属線を用いる金網織物業を営んでいる。取り扱い分野は自動車や化学、食品など、多様な分野で用いられる「フィルター分野」と半導体、太陽電池用電極産業用印刷、コーティング資材に用いられる「スクリーンメッシュ分野」に大別される。

取引先は、日本を代表する工業用金網加工メーカーなど10社程度である。企業としての強みは10ミクロンという髪の毛の9分の1の細さの超極細金属線を用いた製織技術で、全国で3社程度しかできない、1平方インチに635本の金属線を織り込む「635メッシュ」という技術手法にも対応できる強みがある。

また、客が希望する幅でのスリット加工も可能で、他社では見られない検査表を添えた出荷で好評を博している。

しかし、現在の設備では、準備工程に4ヵ月程度の時間がかかり、断線などのリスクも生じている。さらに工場が手狭で人員も不足しており、設備投資が不可欠の状態であった。また、ごく少量のサビの発生を抑えるなど、品質の向上も課題だった。

## 支援

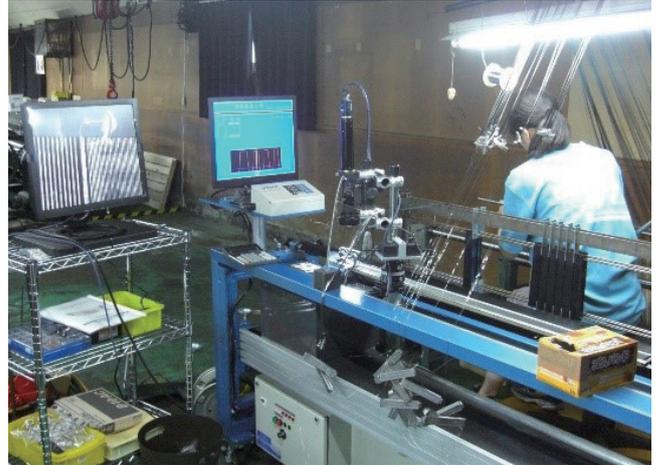
### 閉鎖した小学校の 体育館に新工場も開設

中能登町商工会では以前から、同社に対して小規模事業者持続化補助金の申請支援などを実施しており、その業務内容については、ある程度、把握していた。

そして、今回の設備投資による課題解決のために、ものづくり補助金の活用を支援した。設備投資を実現することで、準備工程の期間を1ヵ月短縮できることや、目を酷使する従業員の負担を軽減化できることなど、多面的な効果を得ることができた。

また、資金調達面でも、同社にもっとも有利な方法を選択するため、商工会が行政に請願し、利子補給制度があるマル経融資の選択をアドバイスした。

さらに、工場が手狭になっていたため、新工場として、閉校した小学校の体育館の活用を提案。実現のための交渉を支援した。また、商工会では、同小学校の教室についてもほか



ものづくり補助金で導入した準備工程設備

の企業に紹介し、利用の道筋をつけている。また、工場の移転の際には県の専門家派遣制度を利用して、価格の適正化を目指したマシンチャージ制（マシンの単位時間あたりのチャージ料×時間）による請求を取り入れた。さらに経営革新計画の策定を支援し、県商工労働部との関係も強化された。

こうした支援の結果、売り上げは微増にとどまったものの、経常利益は173%と大幅増を記録した。さらに工場移転とともに、新たに自動車関係部材の大手企業との取り引きが決定し、今後はさらなる経営基盤の強化が図られる見込みである。

## 支援の経過

期間	支援内容
H28年4月	ものづくり補助金の申請支援
H29年12月	新工場取得にかかわる支援
H30年5月	経営革新計画の策定支援
H30年7月	いしかわ次世代産業創造ファンドの申請支援

## 会社概要

会社名：有限会社森本金網製作所  
 所在地：石川県鹿島郡中能登町高畠ウ部154  
 電話番号：0767-77-1448  
 代表者名：代表取締役 森本陽介  
 創業年：昭和47年  
 年間売上高：3821万円（平成29年）  
 従業員数：6名  
 商工会名・担当者名：中能登町商工会・高田圭一郎